No.２９０５

世界遺産の九州最高峰を訪ねる
屋久島　宮之浦岳

実施日　2018年10月24日(水)～27日(土)
天　候　晴れ
ﾘｰﾀﾞｰ　涌井　良明
参加者　涌井良明、白石恵美子、石附智江、宇野輝代、渡邉悦子、佐藤聡美
計６名
費　用　航空券(ｳﾙﾄﾗ先割り)26,180円
🚗4,470円　宿泊費 9,430円
高速船ﾄｯﾋﾟｰ9,000円　ﾚﾝﾀｶｰ2,700円　合計51,780円
タイム　10/24　淀川登山口(13:10~30)淀川小屋(14:20)　泊
10/25　淀川小屋(5:30)休1520m付近(6:30~40)花之江河(7:45)黒味分れ(9:50)栗生岳(10:30)宮之浦岳(110:55~11:30昼食)焼野三差路(11:58)平石岩屋(12:50)新高塚小屋(14:25~40)高塚小屋(16:06)　泊
10/26　高塚小屋(6:35)縄文杉(6:50~7:20)ウィルソン株(8:50~9:00)大株歩道(9:30~9:45)楠川分れ(10:58)辻峠(12:10)太鼓岩(12:20~35)辻峠(12:50~13:15昼食)白谷雲水峡入口(14:30～14:35🚗)安房・鶴屋(15:20)　泊
10/27　宿舎(6:20)安房港(6:25~7:00🚢ﾄｯﾋﾟｰ)鹿児島本港南埠頭(9:40~45)ｵﾘｯｸｽﾚﾝﾀｶｰ(9:55~10:10)開聞山麓ふれあい公園Ｐ(11:50~12:30)指宿駅前(13:10~13:40昼食)いわさきＨ・温泉＆砂蒸風呂(14:05~15:20)道の駅指宿(15:50~16:20)鹿児島空港(17:50~20:30)羽田空港(22:10 ✈)

今回は会是とも言える会の仲間と山と自然を思い切り楽しむとの趣旨にピタリとはまったのではないかと言えるのではないだろうか。参加の皆さんもその様に感じてもらえた山行だったのではないかと思う次第です。(Lの希望的観測ですが(^^;))

１０／２４

羽田から鹿児島空港、更に可愛らしい？ATR42-600型機で屋久島空港に。私にとってはまたまたやって来ました、東京都は違う南国らしい空気に触れてすっかりリゾート気分(@_@)

早速トビウオ丼でお昼です。屋久島と言えば何と言ってもトビウオですねー。

で、タクシー掴まえて(空港なので可)登山口に向かうことにする。ドライバーの機関銃トークの屋久島ガイドを聞きつつ海から山へ、途中紀元杉(縄文杉に行けない人が立ち寄る樹齢1700年と言われる屋久杉の代表)を見物して淀川登山口に。時間も早いもので直ぐ側にあるかつて笹川杉と呼ばれた杉にも寄ってみる、いずれにしろ樹齢1000年以上の巨木の杉で近づき放題触り触り放題である。

屋久島では2017年から環境保全協力金として入山者に日帰り1000円、宿泊2000円の納入を求めており、我々も納入済を示す杉の木片標をもらって一歩を踏み出す。(この木片標実は土産物店で割引になるのだ)

淀川小屋まで１時間程で急登もないので、屋久島の雰囲気を楽しみながらノンビリと進む。やはり、木々や葉の茂りは南に来たことを感じさせる。

小さい登降や短い梯子などもある道を、５０分程で今日の宿、淀川小屋に着いた。先客一人、結局我々含め１０人程だったようだ。

水場は直ぐ裏の小川(沢)の流れがで、屋久島特有の軟水を感じる清涼な水だった。静かな森の避難小屋で、夕暮れを味わいつつ夕食後は明日から２日の歩きに備えて早めにシュラフにも

ぐり込んだ･･･　日付も変った頃､満月に煌々と照らし出された森の風景は幻想的であり異次元に迷い込んだようにも感じられた。

１０／２５

今朝の日の出は６時２０分だが、４時起床です。まだ真っ暗なテラス(と言っておこう)で毎度のアルファ米などで朝食を済ませる。

小屋脇の宮之浦岳6.5kmの導標を見て淀川に架かる橋を渡って登りになる。いきなりの急登をライトを頼りに歩く、急登も長くは続かず木の根の張り出した登りの途中で右手の木々の合間から日の出を迎えた。今日の晴れを約束させるような雰囲気がありがたい。

小ピークの展望所でしばし明けゆく屋久島の山や雲海を眺め手から、一旦下りになって､小さめの湿原｢小花之江河｣に出る。木道から再び樹林を少し登って、ポッカリと開けた｢花之江河｣に出る。

時期ではないので花は見られないが、宮之浦岳への道のオアシスといった場所であろう。

黒味岳への黒味分れを過ぎて（黒味岳の往復は見送った）でかい花崗岩が目立つようになった道を進む、何ヶ所かロープ伝いの登降もあるが、いよいよらしくなってきた。樹林も低くなり眺望もきくようになって登

りの苦しさも和らげてくれる登りである(^_^;)

この先には宮之浦岳を始め九州の高峰ランキング上位の峰々が居並ぶ(投石岳、安房岳､翁岳など)。尤も山頂を越して行くわけではないので屋久島の峰々を存分に眺めながら進んで行く。

山肌の所々にアクセントで鎮座する巨岩たちの景観は訪れる登山者に屋久島の山のイメージを印象づけるのではないだろうか。

また、シャクナゲ(屋久島石楠花)が目立つが開花の頃は見事な彩りを添えてくれるのだろう。

正面に立ちはだかる栗生岳が徐々に近付いてそれにつれて登りも急になる。

それにしても今日の宮之浦岳は名物の霧の発生も出来ないほど碧い空が広がり、遮る物もなく堂々とした山岳景観を惜しげも無く見せてくれている。この地が周囲100kmにも満たない小さな島とは思えないを見事な山岳美である。

とは言え､ザックは重いしデカイし、やはり急登はつらいのだぁ。　周囲の巨岩・奇岩たちに励まされて？一歩々と高さを上げて、ひょこっとと言う感じで宮之浦岳山頂に飛び出た。まず目に飛び込んで来たのは、対面するように聳える永田岳で、まるで岩々を鎧のように纏った見事な姿を見せている。

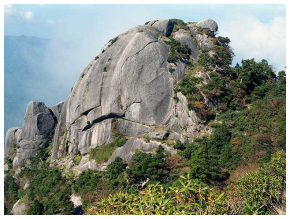
でかめの岩と１等△点と山頂標柱

が立つ小広い頂だ。登山者数人くつろいでいるがゆったりと気分良く山頂でランチをすることも出来た。

それぞれに宮之浦岳を心に刻み付けて山頂を辞した。直ぐに急下降をして、焼野三差路に、時間と体力に余裕があれば永田岳をピストンしたいが、今日は先に向かおう。多くの登山者に踏まれた屋久島竹(屋久笹)に覆われた道は時には背丈ほどにもなるが、遠ざかる宮之浦岳・永田岳などが少しずつ姿を変えながらエールを送ってくれているように感じながら歩を進める。小さめの登降を続け平石を越し平石展望台で小休止。

さて、今日の泊りは新高塚か高塚小屋かと思案しながらだが、取敢えず新高塚小屋で判断として、先へ進む。

やがて左前方なドーム状の巨大な一枚岩が見える、ヨセミテのハーフドーム(行ったことないけど)ならぬ屋久ドームとでも言いたいが、坊主岩と呼ばれているらしい。



道は下りが多くなり、第二展望台、第一展望台となるがどっちも展望はそれ程良くない。シャクナゲとヒメシャラの森を抜け下り切ると新高塚小屋に出る。

縦走コースのポイントとなる、貴重な避難小屋である。2箇所ある水場は柔らかく旨い水を提供してくれていた。

今日は空いている様だが、メンバーと相談の結果、あと1時間先にある高塚小屋(2013年レモンガス赤津慎太郎氏の寄付により改築された)で泊ることにして各自水を確保して出発する。ほぼ下っていく道を進むが、これが多くなってきた屋久杉(樹齢千年以上)に見とれて思いの外時間が掛かってしまった。

１６時も回る頃、高塚小屋に到着、辺りにテント数張、先客二人だった。

１階、2階に各3人ずつ寝場所を確保。(先客1人はテントへ、小屋は10人程だったか、3階建て各階5人程度か)

土台兼用テラス？で心地良い木洩れ陽を受けて夕食に。昨日よりは寒さも感じられずに充分な満足感に浸りながら快適な時間を過ごした。

辺りが暗闇に包まれ始める頃にはシュラフに潜りこむ。今夜も夜半の月明かりに照らされた森が美しい。

１０／２６

今日は縄文杉から白谷雲水峡を経て下山だ。今夜はビウオが食べられそうで楽しみだ。明るくなった6時半に小屋を後にする。登山道も歩き易くなるが、やはり何気なくスックと立つ杉の巨木に目を奪われながら、7時前に縄文杉の展望デッキに着いた。何人かが朝日に照らされ始めた縄文杉と対面している。我々もご対面である。その樹齢は確定して

いないようだが、2500～4000年と巾があるが何れにしても縄文時代から此処に根を張っており悠久の時を経て対峙しているかと思うと人間の寿命は･･･ アーあやかりたーい！！

ひとしきり、ご対面や写真を撮ってからデッキを後に木道や階段が多くなった道を下るようになる、屋久島は杉だけではなくヒメシャラの巨木も多い。

仲良く手をつないだ夫婦杉、風格漂う大王杉など何れも見事な巨木に感嘆しつつ楽しみつつ下る。やや急で長めの下りが終わるとウィルソン株である。やはり人気スポットで観光客も混じり10～20人位が立ち寄っている。最近はなんと言っても株の中から見上げる♡がお約束です。(※秀吉の大阪城築城に当たって献上のめに1586年伐採された、が、デカすぎて運び出せなかったとも言われている。名前は大株の調査をした米植物学者ウィルソン博士からしい)

もちろん我々も株の中へ、小さな祠も置かれた株内で♡ポイントを探す。

ありました、確かにそこからはきれいな♡形に見えますね！

しかし撮影ポイントにいながら何を勘違いしたのでしょう･･･ @_@ って笑い話も(^.^)

この先から観光ハイキング組との行違いが多くなり、しばしば足を止めさせられる。それでも大株歩道入口のトロッコ道へ降り立つ、ヤレヤレ！

次は楠川分れまでトロッコ道を歩く、日帰りハイク組は殆ど入山済なのか行き違うハイカーとも殆ど会わずに１時間の軌道も見所満載で足を止めさせながら楠川分れに着いた。　辻峠経由で白谷雲水峡へ下る分岐点でここから予定通り辻峠へ向かって登る道に入る。島津班が森を管理見回るに利用したと言われる峠道でルート案内の赤布(ﾃｰﾌﾟ)を追ってそれ程急ではない最後の登りをゆっくりと辿る。

峠手前の屋根のように張り出した大岩に感嘆、どんなふうにしてこの形で此処にに収まったのか？！　改めて自然の営みの力を再認識？

登り道が終り辻峠に、白谷雲水峡からのハイキングコースでもあるベンチもある休憩ポイントだ。ここから山岳展望台の太鼓岩へ寄り道、およそ１０分登って太鼓岩だ。

宮之浦岳を始め奥岳の稜線が一望できる。

これだけの眺望が得られるのは雨の多い屋久島では非常にラッキーだ、良い日に来たねー！

周回ルートで辻峠に戻り、昼食後白谷雲水峡入口に向けて下山になる。白谷雲水峡は見事な苔と屋久杉始め巨木の森で宮崎アニメ『もののけ姫』のモデルになったこと

もあって屋久島屈指の観光地でもある。勿論我々も巨木やいかにも木霊が住んでいるような苔の森を足止めをされつつ下るが、見所も過ぎた辺りからタクシー予約の関係でダッシュの下山となってしまったのは反省しなければ、それにしても見所多いねーっ！

白谷雲水峡入口からタクシーで、安房の宿へ。チェックインまで間もあって少し歩いてお土産探しに、屋久杉細工品始め試食ざんまいもあって、なんやかんやと買いだめして宿へ。

下山とお疲れの乾杯、そしてアツアツのトビウオ唐揚げ始め盛り沢山の夕食はまる２日のアルファ米攻めから解放されて大満足だった。

今夜はノンビリ手足延ばして寝られそー、オヤスミ・・・

１０／２７

朝食はおにぎりにしてもらって、６時２０分に宿を後にする。

今朝は一時的に気圧が冬型で北西風が強い。５分ほどの安房港から高速船トッピー(ｼﾞｪｯﾄﾌｫｲﾙ)で鹿児島に向かう。乗客は７割ほどか？

船から屋久島の山々に別れを告げて、船は種子島を経由して２時間半で鹿児島本港に着いた。埠頭から送迎車でレンタカー営業所へ、ワゴンをピックアップしてひとまずは開聞岳山麓を目指す。山頂往復は強風と時間的にも・・・？だったが登山口の開聞山麓ふれあい公園に、土曜日だからか結構なクルマが、山頂に向かっているのだろう。

市内から１時間以上かかったので、Pで１２時前になっており、風も懸

念されるので開聞岳は次回？に譲り断念することにした。取り敢えず登り口まで行ってみる、近くで見る開聞岳は当然だけどでかいね。巨大なすり鉢を伏せたような山肌が頭上にのしかかるように山頂部までその姿を見せている。

Pから１０分くらいで２合目の登山口だった、登ったつもり(◎_◎;)で写真もパチリ。

さて、鹿児島名物？黒豚でランチ！とばかりに指宿駅近くの郷土料理店に直行、黒豚メニューで腹いっぱい、指宿で一番の人気店だそうで、何食べても外れはないとか！？

でっ、次は・・・ 指宿と言えば…そう♨だ。５分でその名も指宿温泉に到着、砂蒸し風呂＆ノーマル風呂で改めてサッパリ、昼間から温泉、ゼイタクだねー。観光地見物からちょっとずらして回るのも楽しい。空港に行く前に鹿児島土産探しに道の駅に寄ることにして、２０分走って到着。

対面の存在感のある桜島や薩摩半島の山々も眺められる、登っても楽しいのだろうな？

さーて、鹿児島湾沿いに北上して空港へ向かおう。喜入の石油基地を過ぎてしばらくで指宿道路、更に九州自動車道を経由して鹿児島空港ICからレンタカーを返して無事に空港へ帰着した。

もちろん乾杯と腹ごしらえ、みなさんオツカレサマ！！ 🎌

全行程４日間、奇跡の快晴に恵まれた、充実・満足できた山行となった。☀️

九州の山また行ってみたいねー！

(記＆写真・涌井　良明)